

「雇用劣化社会は変わるのか～非正規労働運動から考える」

日本では、雇用労働者のおよそ4割を非正規雇用者が占めており、基幹的労働に従事する者も少なくないが、賃金も低く、賃金体系や福利厚生を整備も立ち遅れており、労働条件改善が急務の課題となっている。また、非正規雇用の増大は、正規雇用の労働条件低下につながり、日本社会全体の雇用劣化ももたらしている。

現在、こうした雇用劣化に対して、抵抗する動きも各地で起き、近年では、非正規雇用労働者に関する重要判決が相次いでいる。中でも、契約社員に対して退職金支払いを命じたメトロコマース判決（2019年2月）は大きな注目を集めている。この裁判は、長年わたる非正規労働組合運動の中で行われたものでもあり、全国の非正規労働者の労働条件改善を考える上で、示唆的なとりくみでもある。

本シンポジウムでは、非正規雇用労働者や劣化した雇用の現状を明らかにするとともに、メトロコマース支部の運動に代表される非正規雇用の労働運動が雇用劣化型社会を変える力になるのか、今後の雇用をめぐる状況はいかなるものとなるのかを考えたい。

1) 映画「メロレディーブルース」上映

10月15日(火) 10:50~12:20

共通講義棟南 302 教室

2) シンポジウム「雇用劣化社会は変わるのか」

10月25日(金) 13:10~14:40

共通講義棟南 302 教室

東京東部労組・メトロコマース支部より活動に関する報告
非正規雇用法制をめぐる争点とメトロコマース裁判の意義

原告側弁護士・青龍美和子

雇用劣化型社会の労働市場

伍賀一道（金沢大学名誉教授）

質疑応答



プレ企画「労働ドキュメンタリーの可能性を考える」

10月17日(木) 9:10~10:40 共通講義棟南202

ゲスト：映画監督・土屋トカチ（聞き手・蓑輪明子）

「フツーの仕事をしたい」「アリ地獄天国」など、労働争議に密着した労働ドキュメンタリー映画を作成する映画監督・土屋トカチに労働ドキュメンタリーの手法やその可能性を聞く。

*「フツーの仕事をしたい」DVDは図書館にも所蔵されています。

参加自由・事前申し込み不要

問い合わせ先 経済・経営学部資料室 052-838-2057